

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372900755		
法人名	特定非営利活動法人 八竜会		
事業所名	グループホームまどかⅡ		
所在地	熊本県八代市坂本町西部い2920-1		
自己評価作成日	令和 3年 2月 13日	評価結果市町村報告日	令和 3年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和 3年 3月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然あふれる環境のもと、利用者の意思を尊重し、出来るだけ自宅で過ごされるのに近い生活を送って頂けるよう起床、就寝時間など柔軟な対応を心がけている。食事の時にはテーブル拭きや後片づけもお願ひしている。音楽に合わせてのラジオ体操や地元の踊りや歌を歌ったり、季節の行事、毎月のおやつ作り、洗濯物干し・洗濯物たたみなど一緒に行い、会話ははずみ楽しみの一つとなっている。外部からのボランティアの要望も毎年あり、ご家族様や地域の皆様にも参加してもらい交流を深めている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

雄大な川の流れや四季の彩を楽しむことが出来る山々の景色を望み、地域と共に生活を営む入居者の生活が一変する水害を経験した令和2年度でした。法人体制の変化に伴い、理事長・管理者共に新しいホーム造りを踏み出した矢先の災害であったものの、社会福祉法人との連携が強固になったことで、事業所の再建、入居者の生活が戻った様子が聞かれました。従来から地域との連携も大きく、地域行事やボランティア来訪等での交流も見られていましたが、地域住民の高齢化もあり、入居者だけでなく職員も地域の一人として活動されている様子を窺うことができました。職員育成にも力を入れ、職員面談では理念に基づいたケアが継承されています。管理者は記録方法や業務内容を見直し、職務改善に取り組む体制もありました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	権現福祉会の理念と共に事業所独自の理念を壁に掲げ朝夕の申し送り時に全員で唱和している。毎月の会議では理念を念頭において話し合う機会を作りケアに繋げている。	法人の連携先である社会福祉法人の理念とともにリビングに掲げ、毎朝唱和し、理念の共有及び実践に繋げている。朝礼時には毎日「職場の教養」についての感想を参加職員で述べている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に所属し、地域での行事や清掃活動、常会に参加しつながりを保っている。	毎月の地区の会議には理事長も地域の一人として参加している。今年度は開催や参加が難しい状況であったが、例年、隣接する神社での行事や季節行事、清掃活動等には職員も参加している。	従来から地域との関わりを大切にした生活が送られている様子が聞かれました。高齢化等により入居者の地域参加の場面が少なくなってきているようです。この状況が落ち着いた後は、是非入居者と地域の繋がりを感ずることの出来る取組みに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回の地区の常会時で認知症についての質問を受けたりした際、認知症の支援の方法について説明している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の都度、現在の利用者の状況、サービスの状況、研修の報告を行い委員の皆様にも理解を深めていただいている。そして委員の皆様からの意見は取り上げ改善実施している。	例年、地域住民や家族等、様々な立場からの参加がみられ、事業所の取組について意見交換や入居者との交流も図られる。今年度は感染症予防の面から書面報告のみとなっている。	今年度は感染症予防の面から書面報告のみである状況が確認できました。このような時期であるからこそ、多方面からの意見を得ることが出来るような工夫に期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点があれば連絡し指示を頂いている。運営推進会議に担当の方に参加していただき、事業所の実態を把握してもらい助言を頂いている。またグループホーム連絡会主催の行政からの研修にも参加している。	今年度は感染症対策、豪雨による水害と苦難が続いた年であったため、普段の報告・連絡・相談も更に密であった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関を開放、但し防犯上20時～朝6時は施錠している。身体拘束については事業所内外の研修に参加し全職員が理解したうえでケアに努めている。車椅子で過ごされる利用者については、意思を確認し居室で休んでいただいたり、ソファを利用して過ごしていただいている。	身体拘束適正化検討委員会は第三者を交えた運営推進会議の後、開催している。今年度は感染症予防の面から3ヶ月に1回職員間で委員会を開催し、学び、共有している。玄関には「私たちは入居者の意思に反してその行動を制限しません」の掲示をし、事業所の姿勢を伝えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	事業所外の研修に多く参加して学ぶ機会を持つようにしている。事業所内でも学ぶ機会を持ち、特に言葉の虐待が見過ごされる事のないよう注意しスタッフ会議でも常にケアを振り返っている		

グループホームまどかⅡ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム地区部会の研修等に参加している。スタッフ会議時に研修を行い、参加者は研修レポートを作成し理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み時は勿論、運営推進会議や面会時に説明したり、書面にして郵送したりして、理解し納得頂いている。見学者に対しても重要事項説明書で説明することもある		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時にご家族に声掛けし意見を伺っている。それらを記録に残し、伝達し職員間でも話し合っている。今年度は、電話での連絡を密に行ってきた。	運営推進会議や家族の来訪、電話連絡等を利用し意見を出しやすい環境を作っている。今年度は感染症予防対策のため家族来訪の機会が少なくなったが、事業所からの電話連絡を多くすることで意見をj得る機会を持った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時理事長に報告している。理事長も月1回のスタッフ会議に参加し、利用者に対してのサービスの向上や仕事の内容について話し合っている	毎月の職員会議において、業務・運営に関する意見・提案を述べるjことができる。職員は日々の業務中にも管理者へ意見・提案を伝えることができる環境であり、必要に応じ管理者は法人へ伝え、検討を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や職務に対する意欲、研修への参加意欲等を昇給・賞与反映する人事考課を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得希望者には、勤務調整をしたり、相談に応じている。地域のGH連絡会主催の研修には、より多くのスタッフが参加できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回のG・H連絡会の研修や懇親会、またそれ以外の研修に参加し情報交換をしている		

グループホームまどかⅡ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話を傾聴し不安を取り除くように努めている。入居当初は特に関わる時間を設け職員間の連絡を密にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前はもちろん入居後も御家族の話聞き、折に触れ利用者の情報を報告したり、関係づくりに努めている。管理者を窓口にして深く関わっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に必ずスタッフに情報を提供し、ご家族や本人が必要としている事を入居後すぐに実行出来るようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人の能力に合わせて洗濯物干し・たたみ、テーブル拭きや片付けなど、またおやつを職員と一緒に作ったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	3か月に1回ホームでの様子の写真やお知らせを載せた新聞を発行したり、面会時にもその都度様子を伝えたり家族等からの話を傾聴したりしている。病院受診等にも一緒に付き添い、共に利用者を支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	0 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も以前からのかかりつけ医に受診されたり、自宅近くの友人が来ホームされる利用者など、面会も頻繁にある。住み慣れた地元には出かけ関係が途切れないように支援している。	例年、行事を利用した地域への外出や地域から来訪、ボランティアの来訪等も馴染みのものとなっている。今年度は外出による馴染みの関係継続が難しい状況であったが、窓越しの面会等の工夫により支援を行った。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで歌を歌ったり、ゲームをしたり音楽に合わせてラジオ体操や踊りを踊ったりしている。利用者同士の関係をみて、席の移動もしている		

グループホームまどかⅡ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方にも転居先の施設に面会に行ったり、またそのご家族とも継続的な付き合いが出来るようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動の中で利用者の希望・意向を把握し、家族等の面会時にも利用者の意向を聞くように心がけている。また、興味を持たれた事、趣味、生活歴を見ながら活動内容に取り入れている。利用者個別のシートを作成し全職員が把握できるように努めている。	日々の生活の中で、入居者への寄り添いで意向を把握している。現状、意思の表出が出来る入居者も多く、要望に沿った暮らしが出来るよう、家族とも相談をしケアを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族からはもちろん、それまで利用されていた施設や病院等からの情報収集に努め、入居後も折に触れ本人やご家族に趣味や嗜好品、生活歴を聞くようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い身体状態を把握している。また会話にて精神面の把握をして、その人らしく過ごせるように支援を心掛けレクリエーション等にも積極的に参加を促し運動機能の低下防止にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族等に介護に対する要望を聞いたり、今の課題を話し合ったうえで職員間でミーティングを開きそれぞれの意見やアイデアを反映したり、主治医にホームでの状況等を報告し、又助言を頂きながら介護計画を作成し家族等への説明をしている。	日々の生活の記録を基に職員会議でカンファレンス・モニタリングを行い、評価には入居者の担当職員にも関わっている。会議での職員の意見、家族・入居者の意向をもとに計画作成を行っている。介護計画の見直しは基本的に年2回行い、状況の変化時には都度対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子を個別記録に記入し、朝夕の申し送りや報告し情報を共有している。その情報を必要に応じて話し合い、ケアや介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診、入退院時、冠婚葬祭時の送迎の支援など、本人・家族の状況や要望に応じて柔軟に対応している。		

グループホームまどかⅡ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々の踊りや敬老会の催しなど行事がある時は近所の方々に声をかけをしたり、また地域の行事に参加し交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本的には、家族に同行を依頼しているが、家族の希望によっては職員が同行したり、往診をお願いしたりしている。必要に応じて主治医に連絡して指示を受けている	入居前からのかかりつけ医の継続した受診を支援しており、現在、4医院程のかかりつけ医からは殆ど往診を受けている。専門医受診は基本的に家族介助による通院で情報を共有し、必要に応じ管理者も付添っている。入居者の状況によっては訪問看護も受入っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1回/週、契約している訪問看護師が来ホームし利用者の身体状態を一人ひとり確認し、又職員がホームでの情報や気づきを報告し対応策を助言してもらったり、処置をしてもらっている。訪問看護とは24時間連絡が取れるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、情報を提供するとともに面会に行った際には主治医や看護師から情報を得るようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、重度化になった場合、家族や医師、スタッフと話し合うようにしている。重度化になった利用者の担当医師と連絡を密にしホームで出来る限りの支援を行っている。転居の場合、他施設と情報交換している	実際にその時を迎えた際には、入居者・家族の意向を第一として、訪問看護の受入れや担当医師他との連携のもと、入居者にとっての最善の生活に向け都度話し合いを重ねながら支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内外の研修(消防署によるADの講習含む)にも参加し、全職員が対応できるように努めている。緊急時は職員連絡網に沿って連絡し夜間の急変時は先ず管理者に連絡し指示受けの対応を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練及び年1回の水害時の避難訓練を利用者と共に行っている。緊急連絡網を作り職員に配布している。市政協力員の協力も仰いでいる	年2回の防災訓練を行っており、例年、運営推進会議を通じて地域への協力も依頼している。昨年の水害・台風時には早めに関連事業所へ入居者の避難を行った。水害ではライフライン断絶だけでなく建物も被害を受けたが、法人連携のもと、入居者の安全を第一に職員一丸となって動いた。地震に備え、防災頭巾を玄関に配備している。	

グループホームまどかⅡ

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個性に合わせて声かけや対応を工夫し、誇りやプライバシーを損ねないように注意し会議等で話し合っている。不適切な言葉かけや対応が見られないように職員間で注意し合い啓発に努めている	特にトイレ利用時や入浴時等、声の大きさや声掛けの仕方、また扉の開けっ放し等、日常生活の中での職員対応について気になる事例が見られた際には、管理者から声掛けを行っている。気になる際には管理者もケア入ること職員間の気づきにも繋がっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声をかけ、利用者の希望を引き出すようにしたり、自己決定が出来るようにしている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、利用者の状態に合わせて柔軟に対応している。スタッフの都合に合わせた対応にならないように、会議や申し送りに話し合っている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えや洗面所でブラッシングされる方もおられる、また入浴の着替えの準備はスタッフと一緒に衣服を選んでもらったりこちらで用意している			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や行事食を提供し季節感を出している。テーブル拭きや後片付けなどできることを手伝ってもらっている。職員も同じ物を一緒に食べている	法人で立てられた献立により、事業所内で手作りの食事を提供している。毎月法人で会議を行い、食事に関する意見・要望を伝えることが出来る。職員も同じ食事で共に食卓を囲むため、入居者の日々の様子や変化にも細かな対応が出来る。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がたてる献立にて食事を作り、食事摂取量、飲水量を毎日記録している。また月1回体重を計り職員が情報を共有し管理している。飲水量が少ない方には好みに応じた飲料を提供している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけを行い、本人の能力に応じて見守りや介助を行っている。就寝前に義歯を預かり、夜間洗浄している			

グループホームまどかⅡ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し、尿・便意のない利用者には時間を見計らって誘導することによりトイレで排泄出来るようにしている。就寝後も声かけトイレ誘導している人もいる	排泄チェックシートでのパターン把握とともに声掛け等で、現在は日中はトイレでの排泄を支援している。夜間のトイレ利用もあり、安全に配慮しながら支援を行っている。便秘予防のための食事、水分補給等にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用い排泄パターンを把握し食物繊維の多い食事や乳製品で対応し、水分を多めに取られるよう声掛けしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否の強い方には声かけの工夫や時間、曜日をずらしたりと柔軟に対応し、気持ちよく入浴して頂けるように配慮している。浴槽に入るのが難しい人には足浴をしながらシャワー浴にて対応している	入居者の予定や体調も考慮し、週2回午後の入浴を基本としている。入浴の拒否が見られる際には、声掛け等工夫し、日程をずらす等で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や訴えに応じて休息の時間を提供したり、日中の活動を促し、生活リズムを整え夜間良眠出来るように支援している。不眠の方には家族、医師と相談し安眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作り情報を全員が共有している。処方箋の変更があった場合は副作用や利用者の様子を記録に残し、状態によっては医師や家族に連絡、相談している。禁忌食は冷蔵庫に掲示している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し・たたみ、テーブル拭き、後かたづけ等個々に出来ることをお願いしている。レクリエーションやおやつ作りなどを楽しんでいただき、外気浴、散歩などで気分転換を図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や本人の希望に応じて、またご家族様の協力をいただきながら、散歩やドライブに出かけたりしている。お正月は隣の古田神社に参拝に出かけたり、地域の行事に参加している。	今年度は感染症対策に加え水害被害もあり、その日の希望に沿った気軽な外出は難しい状況であった。ドライブ等の計画による季節行事や祭り見学もできなかったため、日々の散歩や外気浴を利用し、外出の機会とした。	

グループホームまどかⅡ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については、窃盗等もあるのでご家族に説明し、現状では本人による所持及びホームでの預かりはしていない。何か欲しい物がある時は、家族同伴による外出や病院受診時に買い物をする必要がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば職員が取り次いでいる。手紙は本人に手渡し見て頂いたりこちらで代読している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、夏は七夕飾りや冬はクリスマスツリーを飾ったりして季節感を出している。美味しそうな料理の匂いや包丁の音がしたり、音楽をかけて五感を刺激するよう努めている	玄関には季節の花が飾られ、季節を感じる飾りがされている。日中、入居者はリビングで過ごすことが多くっており、食事作りの様子を感じたり、歌を歌ったりボール遊びをしたりと、思い思いのソファや椅子で過ごす入居者の様子がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、ソファ、玄関先のベンチなど一人ひとりが好きな場所で過ごし、テレビを見たり利用者同士話をしたり出来るようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的にはベットやタンスは施設の備え付けを使用しているが、寝具や目覚まし時計など使い慣れた物や写真や人形など愛着のある物を持ってきて頂き居心地よく過ごせるように支援している	従来から事業所では「グループホームは我が家である」の考えのもと運営されており、家族写真や手作りの品が持ち込まれている。居室にはエアコンに加え空調器も完備されており、毎朝窓を開け換気している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の両脇には手すりを設置し、トイレ、浴室の必要な部分にも安全を考慮して設置している。歩行が不安定な方には杖を使用してもらっている。車椅子介助での移動の方もおられる		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームまどかⅡ

作成日 令和3年 4月 1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の対策として、運営推進会議は、書面報告のみであった。	運営推進委員の皆様からの意見抽出を行う	コロナ禍で運営推進会議開催が難しい場合は、会議録の送付時、アンケート用紙などを同封し意見をいただく。	12か月
2	49	コロナ禍で色々なイベントなどが中止となり、また施設としても感染症対策として外出を控えていた。	状況を見ながら日々の散歩や外気浴、ドライブなど外出の機会を増やし楽しんでいただく。	年間の計画をたて、状況を見ながら行う	12か月
3	2	コロナ禍で色々な活動が中止となり、地域の皆様との交流が出来なかった。	状況を見ながら地域の皆様との交流を図る。	イベントなどの開催が出来るような状況になった場合は、地域の皆様への参加の声掛けやこちらから出向く	24か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。